

科目名	助産論Ⅲ(相談・教育技術) Midwifery Ⅲ		担当教員 (研究室番号)	岩田 朋美 (101) 大平 肇子 (104) 永見 桂子 (102) 市川 陽子 (105)	教員への連絡方法 (メールアドレス)	岩田:tomomi.iwata@mcn.ac.jp 大平:motoko.oohira@mcn.ac.jp 永見:keiko.nagami@mcn.ac.jp 市川:yoko.ichikawa@mcn.ac.jp					
履修年次	4年次 前期	科目 区分	専門科目・生涯看護学	選択 区分	自由	単位数 (時間)	1(30)	授業 形態	演習	科目等 履修生	否
										オープンクラス	否
科目 目的	助産活動を支える基本的な相談・教育技術を修得することを目的に、健康教育(相談・教育)を企画し実践する。リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から、生涯にわたり女性とその家族を支える助産師の役割について考察する。										
ディプロマ・ ホルダー (DP)	主要なDP	G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身につけている。(思考・判断)									
	関連する DP	F 人々の健康的な生活を支援するために、必要な情報を様々な方法により収集する技能を身につけている。(技能・表現) H 人々の健康に関する課題の解決に向けて、安心・安全・安楽・自立を基本とした看護を実践する技能を身につけている。(技能・表現)									
到達 目標	1. 女性の健康に関する教育技術および相談技術の特徴と手法について述べることができる。 2. 教育および相談活動のプロセスについて述べるができる。 3. 教育および相談活動を企画し、実践することができる。 4. 実践した教育および相談活動を評価し、女性の健康とケアのあり方について考えることができる。										
成績評価方法 (基準)	レポート課題(20%)、演習課題(30%)、演習への取り組み(50%)										
再試験の有無と 基準等	無:複数回のレポート・演習課題および演習への取り組みにより評価するため、再試験は実施しない。										
教科書	助産学講座5「助産診断・技術学Ⅰ」第5版(医学書院)										
参考書等	必要時、紹介します。										
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	助産師として女性および家族への相談・教育活動の実践能力を高めるための授業です。今までに行ってきた活動を再考し、実際に、対象のニーズにあった相談・教育活動を実施します。助産師になるにふさわしい主体的・積極的な取り組みを期待します。母性看護学および助産学に関連する既習内容の十分な理解が前提です。										
備考	助産師国家試験受験資格取得のための必須科目です。 助産論Ⅰ・Ⅱの単位を修得していることが履修の前提となります。										
回	学習項目			学習内容				主担当 教員	授業 方法		
1回	女性のリプロダクティブ・ヘルス/ライツにおける健康の診断方法			女性のリプロダクティブ・ヘルス/ライツにおける健康のアセスメントの視点と診断方法について学ぶ。				岩田	講義		
2回	集団指導および個別指導の計画立案、実施、評価の過程			集団指導における計画立案、実施、評価の過程および方法について理解する。 ・対象者のニーズ ・実施する集団指導のテーマ、目的、目標の設定				岩田	講義		
3回	集団もしくは個人を対象とした相談・教育活動の計画立案①			グループワークにより、集団を対象とした指導案を検討する。 ・対象者の人数、方法の検討				岩田	演習		
4回	集団もしくは個人を対象とした相談・教育活動の計画立案②			グループワークにより、集団を対象とした指導案を検討する。 ・プログラム、タイムスケジュールの検討				岩田	演習		
5回	指導案の発表と討議			作成した指導案について、グループごとにプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。				岩田他	演習		
6回	指導案の修正			グループワークにより、作成した指導案を吟味し、修正・変更を加える。				岩田	演習		
7回	集団もしくは個人を対象とした相談・教育活動の実践① 媒体の検討			評価方法を検討する。 指導案にもとづき使用する媒体を作成する。				岩田	演習		
8回	集団もしくは個人を対象とした相談・教育活動の実践② 指導案・媒体の修正			指導案を吟味し、修正・変更を加え、教育および相談活動の実践に向けた準備を行う。				岩田	演習		
9回	集団もしくは個人を対象とした相談・教育活動の実践③ 指導案・媒体の修正			指導案を吟味し、修正・変更を加え、教育および相談活動の実践に向けた準備を行う。				岩田	演習		
10回	集団もしくは個人を対象とした相談・教育活動の実践④ リハーサル			作成した集団もしくは個人を対象とした指導案をもとに、最終リハーサルを行い、教育および相談活動の実践に向けた準備状況を確認する。				岩田他	演習		
11回	集団もしくは個人を対象とした相談・教育活動の実践⑤ リハーサルと最終修正			作成した集団もしくは個人を対象とした指導案をもとに、最終リハーサルを行い、教育および相談活動の実践に向けた準備状況を確認する。				岩田	演習		
12回	集団もしくは個人を対象とした相談・教育活動の実践⑥ 指導の実践			指導案をもとに、教育および相談活動を実践する。				岩田他	演習		
13回	集団もしくは個人を対象とした相談・教育活動の実践⑦ 指導の実践			指導案をもとに、教育および相談活動を実践する。				岩田他	演習		

回	学習項目	学習内容	主担当 教員	授業 方法
14回	集団もしくは個人を対象とした相談・教育活動の評価① 評価	実践した教育および相談活動の評価を行う。	岩田	演習
15回	集団もしくは個人を対象とした相談・教育活動の評価② 評価結果の発表と討議	教育および相談活動の評価結果について、グループごとにプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。	岩田他	演習

学 習 課 題

5回目課題(事前)：指導案のグループ発表に向け、作成した指導案を提出する(配点10%)  
 11回目課題(事後)：修正した指導案・媒体・評価表を提出する(配点10%)  
 15回目課題(事前)：評価結果をプレゼンテーション資料としてまとめ提出する(配点10%)  
 レポート課題(配点20%)  
 テーマ：教育・相談活動のプロセスを体験し、助産師の役割について考察したこと  
 レポート：A4サイズ40字×36行、2ページ程度

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。